

**外国人介護福祉士候補者の
【国試対策情報】**

月報 第6号

㈱帝国データバンクでは、2011年1月31日に、介護施設に関する動向調査を発表し、その結果をインターネット上で発表したので、各施設の重要な参考資料として、月報でお知らせ致します。なお、詳細につきましては下記に記したアドレスに接続して詳細内容をご参考下さい。

URL : <http://www.tdb.co.jp/>

特別企画：医療機関・老人福祉事業者の倒産動向調査（2001年～2010年）

**医療機関、老人福祉事業者の倒産、
2010年は前年比大幅減**

～ 老人福祉事業者の8割超が10年未満で倒産 ～

はじめに

医療・老人福祉問題は国が最も優先すべき課題のひとつとなっているが、現場では経営状態が悪化する事業者の増加や労働条件の悪化に伴う人材不足といった大きな問題を抱えており、患者とそれをケアする人員の需給バランス崩壊が懸念される。またその一方で、企業再生支援機構（医）養生院（神奈川県）など地域の事業再生に力を入れるなど、今後、医療機関などの事業再生、再編の動きが活発化することが予想される。

帝国データバンクは、2001年～2010年における「医療機関※1」「老人福祉事業者※2」の倒産（法的整理のみを対象）動向について調査・分析した。

※1 病院・診療所・歯科医院が対象。「病院」＝病床数20以上、「診療所」＝病床数20未満で区別

※2 養護老人ホーム、特別養護老人ホーム、軽費老人ホーム（ケアハウスを含む）、老人福祉センター、老人デイサービスセンター、老人短期入所施設の運営および、移動入浴サービス、在宅介護サービス（医療は行わずに地上生活の介護）を行っている事業者を対象

注） 2005年3月以前のデータについては、今回より集計方法を見直したことで前回（2010年1月13日）発表データと一部集計数値が異なる項目がある

調査結果

■ 2001年～2010年の医療機関の倒産件数は349件、老人福祉事業者は120件となり、医療機関の内訳は「病院」が85件、「診療所」が161件、「歯科医院」が103件となった ■ 2010年は医療機関が41件、老人福祉事業者が17件とそれぞれ過去最高となった2009年を大きく下回った一方、「診療所」と「歯科医院」の負債額は過去最大となった ■ 倒産態様別では「診療所」「歯科医院」「老人福祉事業者」の8割超が破産となった ■ 業歴別では老人福祉事業者の78.3%が「10年未満」となった

< 施設の声 >

- その1.** 候補生たちを介護専門の学校に通学させて勉強をしているが、日本人と同じ試験を受けた結果、50%くらいしかとれない状態にある。
漢字が分からず点数がとれないのか、介護の専門知識が不足して点数がとれないのかを、確認しながら残りの一年間、国家試験の勉強に力を入れていく予定でいる。
教師会の月報5号に掲載されていた第一回目の「日本語能力別試験（6分間テスト）」の考察も非常に参考になるため、是非、続けてこの試験を月報に掲載してほしい。
考察を参考にしながら、また学習方法を考えていきたい。（愛知県・S施設）
- その2.** 大学の先生に指導してもらっているが、日本語の能力の伸びは芳しくなく、なかなか厳しい。
今年は国家試験対策を中心に学習するが、果たして受かるかどうか疑問だ。（山梨県・W施設）
- その3.** 日常的な日本語の会話はだいぶ良くなってはきて問題はないが、日ごろから日本語の学習には力を入れているが、国家試験の問題を読解できる能力が身につけていないと感じている。
候補生間で、学習の仕方や、勉強の進み具合などの情報交換が密にされていて、国家試験まであと一年間あるが、焦りや不安がすでに感じ取れる。教師会から送られてきた、月報5号に掲載されていた「日本語能力別試験」の結果考察を是非、参考にしながら、国家試験に向けた学習を進めていきたい。特に、考察でも指摘された「国家試験問題が読解できる力」を養うことが、やはり重要なんだと認識した。（山形県・K施設）
- その4.** 候補生二名を受け入れているが、言語能力のレベル差が開いてきているのが現状。国家試験まで、残り一年間を専門の教師に依頼するか今検討している。（神奈川県・F施設）
- その5.** 候補生二名を受け入れ、ボランティアの人に日本語学習を任せているが、二名の言語能力のレベル差が開いてきた。一人がワンワードコミュニケーション表現の範囲で、日本人の職員が候補生の言いたいことを推測しながら対応している状況。教師会の【100万人の日本語NO2】の教材を使って学習しているので、送られてくる月報も参考にしながら進めていきたい。（岐阜県・Z施設）
- その6.** 候補生の日本語学習に対するモチベーションが低く、国家試験に受かって受からなくても、母国に帰るという意識でいるので、どうにかして学習させたいという施設側の意志も失せた。施設側も受け入れに対して、多大の出費を重ねてきているのに、こんな状態では今後の受け入れを考えざるを得ないと思っている。（鹿児島県・R施設）
- その7.** 候補生の日本語の学習や、国家試験の勉強は思ったよりはかどってはいない。
仕事が終わって、日本語を勉強することがつらいように感じ取れる。（沖縄県・C施設）
- その8.** 候補生のモチベーションに差があり、二極化している。プロの先生をつけているが勉強している人としていない人がいるため、分けて指導をしている。（山口県・H施設）
- その9.** 施設の介護スタッフをパートで雇い、日本語ほか学習指導を専属でもらっているため、少しずつよくなってきた。（大分県・P施設）

【試してみよう!国家試験問題】の

「6分間テストの集計結果」報告

はじめに、NPO 法人全国日本語教師会では、公益事業の一貫として、全国の介護施設でEPA協定に基づく、「外国人介護福祉士候補生」を対象に、2012年1月の【月報】紙上で、日本語能力別試験を無償で行った。

応募受験者数は、第一回目に関わらず、全国から126名の応募者があり、「国家試験と日本語能力」に対する関心の高さを示した。なお、受験者には個人別に、【日本語能力考察表】を渡し、今後の日本語学習に対する具体的な方法と「弱点の克服方法」を添付して、試験結果とともに返却した。

【総合評価】

評価基準は、下記に記す四項目で評価した。

A、漢字は読めて介護知識も正しい	<試験結果 17%>
B、漢字は読めるが介護知識が間違い	<試験結果 25%>
C、漢字は読めないが介護知識は正しい	<試験結果 45%>
D、漢字は読めなくて介護知識も間違い	<試験結果 13%>

試験問題が「漢字の読み問題と、マークシート形式」であったために、受験者の日本語能力と、専門知識に対する理解度を【四項目の基準】で解析することができた。その結果、全体として見ると、A項目は17%の解答率で、D項目は13%の解答率であった。この結果からすると、C項目の「漢字は読めないが、介護知識は正しい」が45%にも上り、異常な結果が出た。

その原因は、「試験方法がマークシート形式」であったために、解答欄の文書の特に、述部に受験者は注目して、述部の言葉によって解答していることが判明した。その証拠として、試験問題の解答文には受験者が、述部に下線等を引いた痕跡が多数の受験者のものに残っており、正しい日本文の理解の基に、解答を導き出したとは言えない結果が出た。即ち、「読めない漢字を使った質問文」に対して、「読めない漢字がある解答文」を正しく理解することは不可能であり、一つの正解を選ぶ方法として、「記述方法の中から正解選び」をしたことがここで明白となった。

この結果を生じさせた理由は、受験者が「国家試験対策」の勉強方法として、【受験テクニック】のみを習得し、本来の日本語力の実力や、正しい介護知識の習得よりも、結果として、国家試験に合格すれば良いとする【実態・実力の無い介護士作り】が堂々とまかり通っていることが今回の試験結果で示された。

全体の割合では、A項目の17%即ち、126人中21人にしか過ぎなかった。この結果は、一年後に迫る国家試験に対する【受験勉強の仕方を、根本から考え直さざるを得ない】結果となった。今回の試験結果を考慮すると、【国家試験受験能力を養う】と【国家試験合格能力を養う】とを明確に分離して、受験勉強をさせる指導が必要だ。即ち、試験日までの期間を分割して、その期間の2/3は【国家試験受験能力を養う】にあて、残り期間1/3を【国家試験合格能力を養う】にあてた学習計画を立てて、確実な「国家試験合格」を目指すことが重要なことだと言える。

【国家試験受験能力】を養うための教材！！

※ 教材の選択は、「学習者の日本語力にあったもの」を選ぶことは当然のこと。そして、教材の編集の仕方が、必ず「易しいものから難しいものへ」と作られていること。これらのことが、学習効果に与える重要な要素となり、教材の質を表していることを認識しなければならない。また、前後の文章の関係が必ずあり、文脈が通じていない限り、学習の結果を生み出す要素が減少してしまうこととなるので、この点についても十分に認識して選択する必要がある。

【教材の選択基準】

- 1、学習者の日本語力の査定（レベルチェック）の結果、学習段階にあった教材の選定。
- 2、目次の確認をし、全体的な文章の文脈が有るか無いかの認定。
- 3、日本語の漢字に対する表記方法を確認し、できるだけ振り仮名の無い教材の選定。
- 4、日本語に対する翻訳文が有るか無いかの確認をし、翻訳文の有るものについては極力避けて、日本文だけの教材を選定 【日本語を日本語だけで学ぶ】立場に立つことにより、学習者の頭の中では、日本語を日本語で考える思考性を作り、正しい日本語の習得をさせるために必要。
- 5、テキストの巻末に「語彙帳」と「使用文型表」が有るか無いかを確認して、特に、語彙帳には対訳した語彙が無いものを選び、「暗記による学習を避ける」ための教材の選定。
- 6、使用文型表が有るものには、例文が有るか無いかを確認して、有るものを選び、「自分自身で外国語を学んでいく力【自学能力】を養える」ものを選定。
(基準を厳守し選択することが大切)

【国家試験受験能力到達度】チェック

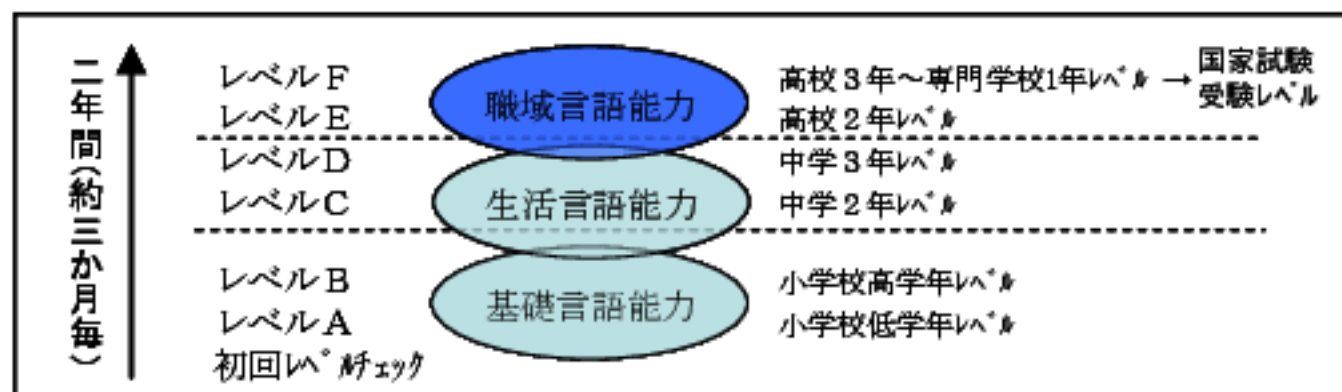
当会では、外国人介護士候補者のために【言語能力】を段階的にチェックする（A～Dレベル）と、【国家試験受験能力】をみる（E・Fレベル）を実施しています。

※ 受験者には試験結果に基づき、考察表（言語能力到達度）にあわせて、学習アドバイスをしていますので、現在依頼している日本語教師任せにせず、施設担当者が、客観的な「考察表評価」に基づいて現状を把握することが、日語能力を伸ばすために重要です。

※ そのためには、**3ヶ月単位で日本語力をチェックすることが大切です！**

常に、貴施設で働く外国人の日本語能力の変化を、客観的な数値で評価できる定期テストを重要視しましょう。その理由は、**国家試験受験能力は、試験問題が理解できる能力（読解力）をいい、合格能力は試験問題に対し、正しく答えられる能力（知識力）をいいます。**

※ 今後、貴施設の安定した運営のためにも、ぜひ定期テストを受けることをおすすめします。すでに、多くの施設ではその効果がでて安心したという声も増えてきています。



《 学習者が勉強したくなる！ 楽しく・分かりやすい専門教材 》

【 基礎言語能力レベルⅠ 】

- 【教材の特徴】 ① 視覚的に学べる ② 日本語の「規則性と用法」が学べる
③ 漢字も類推して読める ④ ストーリー性があり、体系的に作られている



【テキスト「100万人の日本語 No.1」】

日本語の基礎知識を身近な事例で、分かりやすい文で書かれており、特に「だれが・なにを・どこで・いつ・どうする」を使って、「規則性とその用法」が学べ、自分に合能力がつくような内容になっています。

- ※ 習得漢字数 210字～220字
※ 習得語彙数 320語～1,560語



【漢字のーと(1)】

□
『100万人の日本語No.1』に引いた構成となっており、「文型・文の作り方」を習得しながら、効率的に漢字の読み書きが習得できるようにしています。
※漢字の学習者が漢字を習得する上で最適です。
また、中国人学習者にも同様です。



【ひらがなのーと】

□
ひらがな文字の習得に最適な教材です。本邦や海外で生活するだけでなく、日本語の基礎となる「質問と答え」の仕方にも必要となる表現方法が学べます。
身近な事例を使って学べるので、社会生活に必要な語彙も同時に学べる教材です。



【ひらがなのーと】

□
表紙にはひらがな文字が一文字ずつ書かれて、裏面にその文字を使った語のイラストが色鮮やかに描かれています。
イラストには「ひらがな・カタカナ・漢字」の3種類の文字でその言葉が書かれており、学習者が文字を比較しながら、漢字できるつづきになっています。
基礎教育の日本語学習に最適な内容になっています。

【 基礎言語能力レベルⅡ 】



【テキスト「100万人の日本語 No.2」】

□
会社や学校、家庭内など場面における会話を中心に構成され、社会生活に必要な語彙を効率的に学べ、性別や立場による言葉の使い分けを習得できます。
さらに、本テキストを前とすると、「自分の思いや考え」を表現するための能力が身につくように作られています。各ページで、日本語のあらゆる規則性と用法が学べます。

- ※ 習得漢字数 420字～540字
※ 習得語彙数 570語～1,710語



【漢字のーと(2)】

□
『100万人の日本語No.2』に引いた内容で、漢字習得と文の作成練習だけでなく、文章に対する読解力も、同時に養えるように作られています。
漢字の「へん・つくり」の付箋もあり、「漢字の成り立ち」に対する理解が、できる内容となっています。
※漢字の学習者が漢字を習得する上で最適です。また、中国人には、日本の漢字を理解できる特徴があります。

【 レベルⅠとレベルⅡの違い 】

レベルⅠは、日本語を学ぶ上で重要な「規則性と用法」を学習して、【聞く・話す・読む・書く】を基本とし、日本人と同等の力を養うことができる能力を育てます。
レベルⅡは、会話を中心に「思いや考え」を日本語で表現できる能力を養います。



【カタカナのーと】

□
カタカナ語を使った場面を学ぶイラストが各ページにあります。
このノートは、説明文と会話が繰り返し書かれています。
場面を説明する文は、日本語の理解と、その場面に練習しながら、練習問題によって、読解力と文型の応用力を養えるようになっています。

【 生活言語能力レベルⅢ 】



【テキスト「100万人の日本語 No.3」】

□
テキストNO1とNO2とは違い、NO3では職場での日本語力が発揮できるように、選られた登場人物の日常的生活と仕事を通して、「日本語の使い方(運用)」力が養えるように作られています。
そして、登場人物を通じて、会社での習慣や礼儀作法なども合わせて理解できることが特徴です。

- ※ 習得漢字数 350字～1,700字
※ 習得語彙数 1,110語～2,330語

【 レベルⅢの特徴 】

日本独特な表現、特に「語感」を習得し、人間関係を考慮した専門領域での日常会話ができる能力を高め、職場での意思伝達ができるようになります。 語の種類と文の種類を使い分けながら、要約する能力を養うことで、職場での報告書やレポートが書ける能力が身につけられます。
また、日本事情の知識も得られるのが特徴です。

学習段階	教材一覧	価格
レベルⅠ	「ひらがなカード」	¥ 1,050
	「100万人の日本語No.1」	¥ 2,550
	「ひらがなのーと」	¥ 1,800
	「漢字のーと 1」	¥ 1,360
レベルⅡ	「100万人の日本語No.2」	¥ 2,550
	「カタカナノート」	¥ 1,360
	「漢字のーと 2」	¥ 1,360
レベルⅢ	「100万人の日本語No.3」	¥ 3,000
※ 送料は別途		

よりよい教育効果を上げるために！！

- ★★★ 40年間の日本語教育実績がある【日本語教育教材】を、当会では、長年に渡り使用して、大きな教育効果を上げております。また、この教材は【日本語を日本語で学ぶ】ことができるもので、学習者が自宅学習を積極的にできるような作り方となっており、決められた学習時間以外でも、独学で学べるのが最大の特徴です。自信を持って当会が使用している教材を推薦致します。なお、この教材は、一般書店では入手困難な書籍であるために、これを機会に是非、ご購入下さい。
- ★★ ご購入頂いた皆様方には、具体的な教材の指導書を同封しておりますので、指導経験が無い方でも、安心してお使い頂けます。指導書に従い教育することで、学習者の反応が見違えるように変化しますので、教育効果が高まることは間違いありません。ご質問等があれば、お気軽にお問合せ下さい。

【日本語教育教材】申し込み書		<送付先：FAX 03-6677-0632>	
施設名：		ご担当者名：	
所在地： 〒			
電話：		FAX：	
メールアドレス：			
※ ご希望の教材の冊数を（ ）内に必ず、ご記入下さい。			
100万人の日本語No.1（ ） ひらがなかーど（ ） 漢字の一と1（ ）			
100万人の日本語No.2（ ） ひらがなの一と（ ） 漢字の一と2（ ）			
100万人の日本語No.3（ ） カタカナノート（ ）			
※ お申込書が届きましたら、一週間以内に教材をお届け致します。教材到着後、三日以内に同封しているお振込先にお支払い下さい。送料は着払いにさせていただきます。			
全国日本語教師会 事務局 〒167-0022 杉並区下井草4-13-6-202			
電話：03-6317-6009 FAX：03-6677-0632 メール：nihongokyoushikai@gmail.com			

【国家試験受験能力到達度】チェック申し込み書 <送付先：FAX 03-6677-0632>			
施設名：		ご担当者名：	
所在地： 〒			
電話：		FAX：	
メールアドレス：			
受験者名：	国名：	受験人数：	名
<単発受験> ※ ご希望の受験形態に□「レ点」を記入願います。下記の料金は受験者1名あたりの金額です。			
□ 各受験段階で1回あたり @9,450円×		名	合計金額 円
<継続受験>			
□ 受験段階初回からの場合 @7,350×10回=73,500円×		名	合計金額 円
□ 受験段階Aからの場合 @7,350×9回=66,150円×		名	合計金額 円
□ 受験段階Bからの場合 @7,350×8回=58,800円×		名	合計金額 円
※ この試験は国家試験受験能力を養うために実施しますので、約三年間分の受験料金となります。			

★ 試験サンプルもあり、内容については詳しくお話できますので、03-6317-6009までお問合せ下さい。

